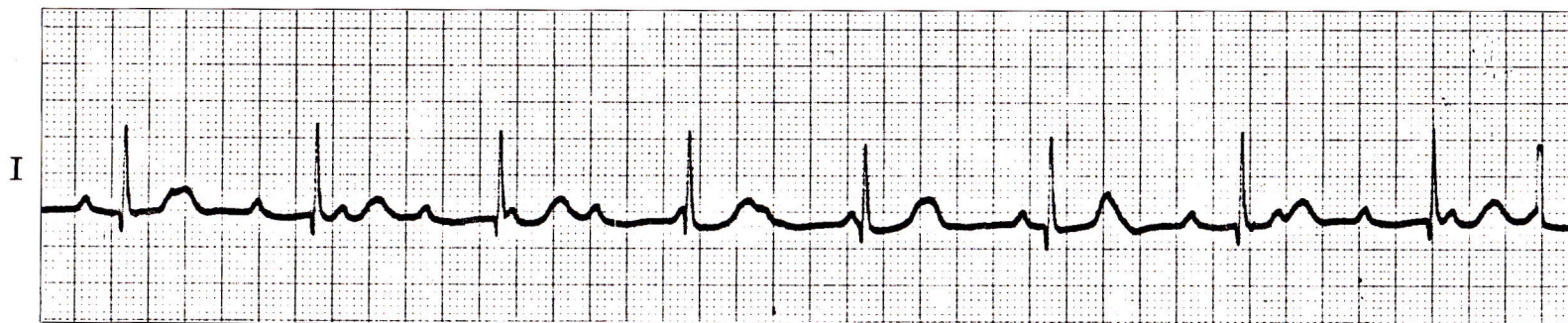


症例 55

●58歳 女

4年前より不整脈を指摘され、通院加療を受けている。特に自覚症状はない。



- 1) このリズムは何か。
- 2) 治療はどうすればよいか。

完全房室ブロック＋房室接合部性補充調律

P波(↓)とQRS波が別々のリズムで出現、したがってPQ時間がまちまちのように見える。

QRS幅<0.12秒。RR間隔約1.04秒、心拍数約58/分。

解 説

補充調律の中枢が心室の場合は、症例 56 のように心拍数が20～40/分と高度徐脈を呈することが多いが、房室接合部から補充調律がでる場合には心拍数は40～60/分で無症状であることが多い。この状態でリズムが安定していれば経過観察にとどめてよい。この形の房室ブロックはブロック部位が房室接合部付近であり、可逆性である場合が多いため、インドメサシン、副腎皮質ホルモンなどの内服が有効な場合もある。

